

目次／連月カレンダー／偉人のことば … 1

教えて、先生! … 2

「事務室の雰囲気、どうすればよくなりますか？」

京都翔英高等学校 澤田守雄さん・渡部由美子さん

Y's NEWS／プレミアムパスポートのご案内 … 5

小規模法人における望ましいマネジメントシステム … 6

第1回 学校法人の経営資源について考える

School Management Review … 8

公立小・中 スマホ容認

2019年4月吉日

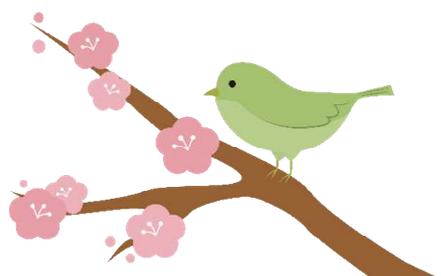
No.55

2019年4月

月	火	水	木	金	土	日
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

2018年5月

月	火	水	木	金	土	日
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		



偉人のことば

**明確な目標を定めたあとは、執念だ。
ひらめきも執念から生まれる。**

(安藤百福)

つい先日まで毎朝テレビに登場していた？、安藤百福の名言です。

インスタント麺を開発する、という明確な目標を定めたあと、

彼はまさに「執念」でそれを実現していきます。

寝ても覚めてもそのことばかりを考え、妻をはじめ周囲の一挙手一投足が彼の商品開発のヒントになっていく。

ひらめきが執念から生まれるというのはまさにそうだったんだろう、と思わせる凄みを感じます。

しかし、その執念はどこから生まれるのでしょうか。

そう、それは「明確な目標」。

行きたいところがはっきりすれば、そこに向かうための苦勞は乗り越えられるものになる、ということもまた、この名言のポイントでしょう。

執念を生むような明確な目標、貴校園にはありますか？

教えて、先生！

「事務室の雰囲気、どうすればよくなりますか？」



学校法人 明珠学園

京都翔英高等学校

Kyoto Shoei High School

新年度最初のインタビューは京都府宇治市にキャンパスがある学校法人明珠学園・京都翔英高等学校です。2016年の高校野球・夏の大会で甲子園にも出場され、近年大いに人気を博している同校。昨年度の弊社セミナーにご参加いただいたご縁で今回のインタビューもお引き受けいただきました。本シリーズでは京都の私立、初登場です。今回も気づきの多いインタビューとなりました。（インタビュアー：吉田俊也）



学校法人明珠学園 京都翔英高等学校
事務部次長 澤田 守雄さん（写真左）
事務部主任 渡部由美子さん（写真右）

●特色いっぱいの学校・京都翔英

—先日は弊社セミナーへのご参加ありがとうございました。初めてのご参加でしたが、いかがでしたか？

（澤田）今までいろいろセミナーは受講してきたつもりなんですけど、グループディスカッションがあるセミナーは初めてでしたね。他校のお話を伺うことができ、とても有意義でした。京都府下であれば他校との交流もあるのですが、他府県の方々とは接点がなかったので、本当に貴重な機会だったと思います。そうそう、ちょうど昨日もセミナーで一緒させていただいた兵庫県の某私学の方からお電話をいただきましたよ。こうやって情報交換できるのは本当に有難いですね。（渡部）いつも見慣れているセミナーの資料はすごく細かい字でいっぱい書かれているものが多いんですが、今回の資料の字体を見た瞬間、その柔らかい印象と字の大きさで資料を読もうという気持ちにさせられました（笑）。事務室のみんなにもコピーして配ったんですよ。

—なんて嬉しいご感想！学校経営セミナーは毎年開催しているのですが、ぜひ本年度もお越しください。

さて私は今日初めて御校にお伺いしましたが、皆さん、接遇がとてもしっかりされていますね。ひとつひとつの動作が丁寧で、きびきびされている印象を受けました。

（澤田）本校はもともと専修学校だったのですが、その頃の学校名は「京都少林寺高等専修学校」です。今は専修学校ではなくなりましたし、校名も変わっていますが、少林寺拳法の教えを大切にしていることには変わりありません。ですから、礼儀作法には厳しいところがあります。ちなみに、

体育の授業でも少林寺拳法は必修です。

—なるほど、そうなんですか。それ以外にも、御校は特色あるカリキュラムが多いそうですね。

（澤田）まず本校は単位制の高等学校であるというのが大きな特色ですね。高1では全員が基礎力養成のための勉強をするのですが、高2からは5つの類型に分かれます。進学を目指す生徒もいれば、スポーツや芸術系へ進む生徒もいますし、芸術の中でもイラストや工芸など、さらに細かく分かれていきます。ちなみに、高2で選択した類型を高3進級時に変更することもできます。

—かなりバリエーションに富んでいるんですね。

（澤田）他にも、フリーアカデミー（FA）クラスというのもあります。中学時代に保健室登校等の状態だった生徒に対するカリキュラムを設定しています。



校舎に入ると親しみやすいキャラクターがお出迎え！

—最近是不登校の子どもたちが多くなっているとも言われます。中学時代に学校に行きづらかった子が、高校に通えるようになるというのは劇的な変化ですよね。その変化を起こすためには学校として工夫されていることも多いのではないですか？

(澤田)まず登校時刻を遅めに設定している点が挙げられます。朝の登校がつらい、というケースが多いので、10時30分からのスタートにしています。そして、校舎も他のクラスとは別に設けており、心理的なハードルを下げています。もちろん、本校教員の熱心なサポートもありますから、FAクラスの子どもたちもこの学校にはちゃんと登校してくれています。

—きっと学校の楽しさや居心地の良さが伝わっているのでしょうか。ちなみに、いろんなコースがあったり、単位制になっていたりということで、事務系統の業務が増えるということはあるのでしょうか？

(澤田)基本的にはありません。ただ、近年は就学支援制度の充実が図られましたので、それにかかる事務はかなり増えました。

—なるほど。ちなみに現在、事務室には何名在籍されていますか？

(澤田)事務長を除くと5名です。男性3名、女性2名です。就学支援制度以前から体制は変わっていませんので、現在はかなり負荷が大きくなっています。ご存知ない方には学校事務は結構暇だと思われるようですが(苦笑)、本当に忙しいです。現在は1つの業務を1人の担当のみでこなしているのですが、これを何とか複数担当にしたいと思いつながら、なかなか実現できません。これが今後の大きな課題だと思っています。

—事務室のメンバーはどんなご経歴の方が多いいですか。他校では卒業生の方が多かったりすることもあるのですが。

(澤田)本校の卒業生はいませんね。実は全員が民間企業の出身です。平均年齢が50代と高いのが課題だと感じています。

●会議の工夫で事務室機能を向上！

—先日、弊社のセミナーにお越しいただいた際に小耳にはさんだのですが、事務室の皆さんで早朝会議をされているんですよね？



明るく清々しい雰囲気図書室

(澤田)はい、そうです。週1回、原則として木曜日に開催しています。今朝もやりました(筆者注:インタビューはちょうど木曜日でした)。毎回強制参加ではありませんが、全員早めの出勤をしてくれますね。今朝は6時30分には全員がそろいました。

—早い集合ですね！このしくみはいつごろ始められたのですか？

(澤田)最初は授業時間中に会議をしていたのですが、途中で教員からの依頼が入ったり電話対応が入ったりで、うまく進められなかったんです。かといって夕方以降に会議をするのは帰宅時刻との兼ね合いもあって難しい、となって、じゃあ朝に、となったような気がします。はっきりとは覚えていないのですが…最初は2、3年前だったかなあ？

(渡部)そんな短くないですよ！もうかなり続けている印象があります。おそらく…6年以上は経ちますね。

—6年間も！会議ではどんなことを話されるのですか。訓示とか？

(澤田)いや、そうではありません。議長を持ち回りにしていて、議長が議題を決めるので、そのときによって何を話すのかはまちまちです。

(渡部)今朝の会議では、先日の御社のセミナーの内容をふりかえりました。事務室は学校の顔だから、私たちももう一度事務室の状態を見直そう、ということで、いったん外に出て、学校に入ってくるころからやり直したんです。そうしたら、あまりに整理整頓がなされていないことに気がきました。普段からちゃんときれいにしておかないといけないなあ、と。

(次頁へ続く)

—弊社セミナーのふりかえりまでしていただいたなんて本当に嬉しいです。それにしても、なぜ議長を持ち回りにされているのですか？

(澤田)一番の理由は「全員に当事者意識を持ってもらうため」なのですが、自由に発言できる雰囲気作りにも役立っているような気がします。意見を出してくれるようになればそれがそのメンバーの成長を表していると思います。会議ではそれぞれのメンバーが自分の業務に関する内容を話すことも多く、例えば就学支援に関する制度改正があれば、その内容の研修会を受講したメンバーが他のメンバーにその内容を伝えるなどして、新たな制度の骨子を全員で理解するようにしています。こうやって、各自の業務内容についてある程度共有することができています。

(渡部)特に議題がない時などは変わったこともします。例えば、それぞれの職員が他の職員を褒める、といったことがあります。ちょっとこそばゆい気持ちになることもありますが、ああ、そんなふうに思ってくれてるんだ、と嬉しくなったりして。この会議はお互いの関係性を作るためにも役立っていると思います。

—これまた素晴らしいですね。こうやってお話をお聞きしていると、事務室の雰囲気もよさそうですね。

(澤田)悪くはないと思いますが、比べる相手がいないので…どんなふうに感じてる？

(渡部)雰囲気はいいと思いますよ。会話も結構ありますし。仕事をする時は当然仕事に集中しますが、仕事の合間などは和気あいあいとしています。



校舎前景。ゴルフ部活躍の垂れ幕がありました

(澤田)先ほど自由に発言できる雰囲気、という話が出ましたが、そのような雰囲気をつくるためには、日常のコミュニケーションが大切だと思います。日頃から話に耳を傾けるようにしていれば、自然と自由な意見交換ができるようになっていくような気がしています。

—確かにおっしゃる通りですね。普段からコミュニケーションの素地をつくっておく大切さが、今回のインタビューで深く理解できました。最後に、今後の課題があればお聞かせください。

(澤田)先ほど申し上げた業務の複数担当制が課題です。それに加えて、教員と事務職員の情報共有を進めていかないといけないと思っています。月1回の職員会議では連絡事項を聞くだけにとどまっているので、もう少し接点を多くして、事務職員も学校の進むべき方向性に向けて積極的に仕事をしていかないといけないと思っています。そのためには現状の業務の整理も必要になると思いますので、少しずつそれらを進めていけたらいいと思っています。

今回のインタビューはいかがでしたか。事務職員間の情報共有や関係づくりに悩まれているというケースは決して少なくないと思います。事務室会議はその解決のきっかけになるかもしれませんね。

それにしても、褒められるとやはり気持ちがいいものです。インタビュー冒頭で褒められた私はこの日、ゴキゲンで一日を過ごすことができました。褒めること、褒められることがモチベーションアップの鍵であることを再認識しました。(文責：吉田)

(インタビュー日：2018年12月6日)



立派な体育館。カメラの幅に収まりませんでした(笑)



～学校経営セミナー開催のお知らせ～

おもしろければ生徒は集まる

～なぜブラックゼミに学生が集まるのか～

生徒募集はどの私学にとっても重要な課題ですが、その指標は「進学実績」「偏差値」に偏りがち。しかし、ここ数年で行われる学習指導要領の改訂が目指すところはそこではありません。つまり、進路が多様化する今後に向けて、学校選びの物差しは変化することも予想されます。このたびの学校経営セミナーでは、「ブラックゼミ」と呼ばれながらも多くの学生を集める中森ゼミの主催、龍谷大学・中森教授をお招きしての講話を企画いたしました。「おもしろい」というのはいったいどういうことなのか？子どもたちは何に魅かれて集まるのか？中森教授は、3人のお子さんを全員別の私学に通わせたとご経験もお持ちですので、保護者目線に基づく私学の魅力づくりを含めたお話をいただく予定にしております。話術に定評のある中森教授のセミナーですので、あっという間の3時間になることでしょう。お申込みはHP、メール、FAX等でお待ちしております。先着順ですので、お早めどうぞ。

<講師>中森孝文氏（龍谷大学政策学部教授）

<日時>2019年4月18日(木)14:00～17:00 <受講料>お1人様5,000円(消費税込)

<場所>NSEリアルエステート梅田店

プレミアムパスポート対象講座です！

(〒530-0057 大阪市北区曽根崎2-5-10 梅田パシフィックビル6階

／JR大阪駅・地下鉄梅田駅より徒歩5～6分)

昨年度ご好評につき
本年度も発行決定！

プレミアムパスポートのご案内

(学校経営セミナー 年間受講パスポート)

パスポート1枚で**5回のセミナーすべて**にご参加が可能です！
しかも、1回のセミナーに**同法人3名様まで**ご参加が可能です！

例えば・・・

- ・すべてのセミナーに1名様をご参加いただいた場合、1名/1回あたりの参加費は4,000円。
- ・すべてのセミナーに3名様ご参加いただいた場合には、1名/1回あたりの参加費はなんと1,333円。
- ・初回、ご参加の際に20,000円を申し受け、パスポートをお渡しいたします。

お申し込みは別紙「2019年度学校経営セミナー申込書」、または弊社HPからどうぞ。

<https://www.ysmc.co.jp/passport/>

プレミアムパスポート申込用QRコードはこちら

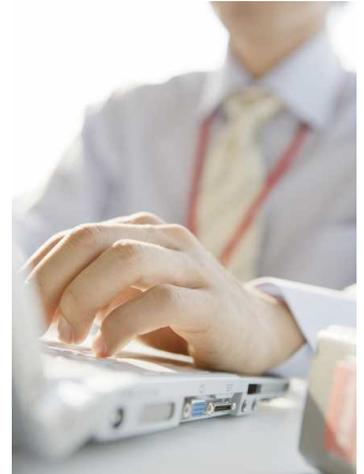


小規模法人における望ましいマネジメントシステム

第1回 学校法人の経営資源について考える

貴校園の経営課題は何でしょうか？

昨今の私学を取り巻く環境は日ごとに厳しさを増しています。例えば少子化は加速的に進みマーケットが縮小していることで依然と同水準の収入の確保が難しくなっています。また、保護者や子どもたちのみならず、社会や行政から学校に対して要請される役割が肥大化し、以前の家庭や地域社会が担ってきた役割の一部を学校が担う事態になっています。それらのニーズを実現するための教職員、特に教員のなり手も十分ではなく、教員採用は厳しさを増しています。一方で働き方にも相当の気を配る必要が出てきており、労務管理のコストは上昇を続けています。そして、近年の国内の気象条件も変化してきているために、安全対策にもこれまで以上にお金がかかります。



このように、経営環境が厳しくなる中で経営するとなれば、ざっと思い浮かべるだけでもいくつもの経営課題が挙がるでしょう。学校経営を永続するためには、経営課題を解決していくことが必要ですが、さて貴校園ではそれらの課題をどのように解決していこうとされているのでしょうか。

そもそも、経営課題の解決のためには一定の「経営資源」が必要です。法人の種別に限らず、経営資源として広く認知されているのは「ヒト」「モノ」「カネ」です。ヒトは「人材」を指し、モノは「商品とそれを生み出す設備」、カネは「資金」を指しています。これら以外にも情報や技術、風土なども経営資源



源として数えられることがあります。まずもって重要性の高いものとして、上記3種類を経営資源として位置付けることに異論のある方はいないでしょう。そして、学校法人における主要な経営資源も、おそらくヒト＝「教職員・役員」、モノ＝「教育内容と施設設備」、カネ＝「資金・資産」の3つを挙げる方が多いのではないのでしょうか。

弊社発行小冊子「学校経営ブックレット」好評発売中

学校経営ブックレットNo. 1

お申込みはinfo@ysmc.co.jpまたは06-6484-7513まで。

学校法人の決算書を読み解く ～新会計基準もこれでバッチリ！～

2017年6月刊行 A5版／全36ページ 定価250円(税別・送料別)

学校経営ブックレットNo. 2

学校における働き方改革 ～長時間労働は正のポイント～

2017年11月刊行 A5版／全25ページ 定価250円(税別・送料別)



このように考えてくると、経営課題は経営資源の不十分さに起因することも多いのかもしれませんが。例えば教員の数あるいは質が期待水準に達しないという事象は、ヒトという経営資源の不足と言い換えられますし、収入の減少、あるいはコストの増加はカネという経営資源の減少を招くことになります。十分な人がいれば、とか、施設が整っていれば、もっとたくさんのお金があれば、といったふうに、経営資源をより多く持ちたい、そのことが経営課題の一部を解決してくれるはず、という思いをお持ちの学校法人経営者は多くいらっしゃるでしょう。

学校法人の場合、通常は在籍者数が大きくなれば、それに連れて経営資源は潤沢になっていくもの、という印象はありませんでしょうか。日本私立学校振興・共済事業団作成「今日の私学財政」には、全国の学校法人に関する多くのデータが掲載されていますので、これらのデータを参考に、いくつかの着眼点で分析を試みたところ、例えば教職員数や固定資産残高、収入や収支差額については、学校規模が大きくなるほど数字が大きくなる、という傾向が確かに見られました（教職員数については本ページ右下の表参照）。つまり、大規模の学校法人であればまだそれなりに保有している経営資源を活用して経営を継続することができるのに対し、小規模の法人は少ない経営資源で経営課題を乗り切っていかなければなりません。

そこで、本年度の連載記事は比較的経営資源が少ない、小規模の学校法人がどのようなマネジメントを目指すべきなのか、という点について考えていこうと思います。私の調査によれば、現時点で存在している学校法人経営の研究論文は、そのほとんどが大学法人を対象としたものであり、小規模の学校法人を採り上げたものを見つけることはできませんでした。この連載が学校法人経営、特に規模が大きい、経営資源が決して潤沢ではない学校法人の経営永続にとって参考になればと願っております。

次回からマネジメントのポイントを採り上げてまいります。ご期待ください。

法人種別	法人数・生徒数・1法人あたり教職員数(単位:人)	規模	～0.6千人	0.6～1.2千人	1.2～1.8千人	1.8～2.4千人	2.4千人～	平均
		高等学校法人	法人数	198	241	154	59	43
	生徒数	332	881	1,455	2,044	3,241	1,097	
	1法人あたり専任教職員数	35	62	89	115	184	72	
	1法人あたり専任職員数	8	14	17	22	37	15	
大学法人	規模	～0.5千人	0.5～1千人	1～2千人	2～3千人	3千人～	平均	
	法人数	30	41	109	98	270	548	
	学生数	299	780	1,478	2,498	9,133	5,315	
	1法人あたり専任教職員数	35	73	171	179	425	283	
	1法人あたり専任職員数	20	95	282	225	384	294	

高大を比較すると、職員数のほうが差が大きくなっている。

School Management Review

公立小・中 スマホ容認

大阪府で、公立小中学生の学校へのスマホ持ち込みが認められるというニュースが流れました。日経新聞から引用します。

教育庁によると、都道府県単位で解禁するのは初めてという。同日公表したガイドライン案によると、登下校時に持参する目的を「防災・防犯のため」と明記。地震などの災害時や犯罪に巻き込まれる危険に直面している場合のみ使用できるとした。校内ではカバンなどに入れて児童・生徒が管理し、教職員員の指示を受けて利用する。

弊社では各校園の学校評価アンケートの集計・分析をさせていただく機会がありますが、子供の携帯所持に関する保護者からのニーズが高まっていることは強く感じられます。

そして今後、この動きは各都道府県で広がっていくのかもしれませんが。

柴山昌彦文部科学相は(2月)19日の閣議後記者会見で、小中学校へ携帯電話やスマートフォン(スマホ)を持ち込むことを「原則禁止」とした2009年の文科省通知を見直すことを明らかにした。緩和を含め検討する。小学生(4年生以上)や中学生の普及率は6~7割まで高まっており、実態に合わないと判断した。緊急時の連絡手段として要望が多いことも踏まえた。

公衆電話、FAX、eメール、そしてSNS。通信手段はここ数年、十数年で一気に変化を遂げました。その中で、子どもたちと家族の連絡、学校と家庭の連絡手段にも大きな変化が起きようとしています。

先ほどの記事の中には、私学の対応は各校でまちまちである、との記述もありました。貴校園ではどうされていますか。スマホの学校持ち込みには良否双方の影響があると思いますが、私学においては、各校のあり方に応じて、筋の通った説明ができるよう見解を整えておくべきでしょう。

先日訪問したある私立小学校では携帯電話の学校持ち込みを禁じておられます。保護者からのニーズは強い、とおっしゃるその小学校の校長先生は、こうおっしゃいました。

「仮に携帯を持っていても、親が期待する安全確保が担保される可能性は低いのではないかと。むしろ、携帯を持つ危険性のほうが、はるかにそれを上回っている」

教育現場に長年携わられたからこそその経験で、子どもたちのリスクを先回りして考えておられる様子でした。



この校長の言葉通り、子どもたちのスマホトラブルが後を絶たないのも事実です。日経新聞にはこのような記事も掲載されていました。

スマートフォン(スマホ)を利用する小学4~6年生の7.3%が、フィッシング詐欺や架空請求、不正ログインなどのサイバー犯罪関連のトラブルに遭っていた——。情報セキュリティ会社トレンドマイクロが保護者を対象に実施した調査で、こんな結果が出た。調査には618人が回答した。子供へのセキュリティ教育は保護者の76.7%が実施していたが、交流サイト(SNS)に投稿した写真を巡り、どんなトラブルがあるかよく知っていると答えた保護者は33.7%にとどまった。

保護者が学校に期待することは時代とともに変化し、かつ増えてきているように感じます。学校と保護者の役割を明確に線引きすることは難しくても、双方が連携しながら、子どもたちの安全確保を図る必要がありそうです。

(弊社ブログ「寝ても覚めても学校のこと。」より2019年2月13日・25日付記事を改編し掲載)

学校経営のコンサルティングサービス

事業計画

「なりたい学校になる」
ための取組を支援します。

研修・人事制度

「一枚岩の組織に成長する」
ための取組を支援します。

財務・会計

「学校財産を有効活用する」
ための取組を支援します。



未来へつなぐ、夢がある。
株式会社ワイズコンサルティング/ワイズ税理士・診断士事務所

TEL (06) 6484-7513 FAX (06) 6484-7518 E-mail: info@ysmc.co.jp
URL: <https://www.ysmc.co.jp>(会社) <https://www.ystax.jp>(事務所)
Facebookページ: <https://www.facebook.com/ysconsult>

